

京都市文化観光資源保護財団

87

NO.

2004. 5. 1

もくじ

—寄稿—

京都の六斎念仏

京都六斎念仏保存団体連合会会長

橋本治夫

P 2

—特集—

「京都の庭」(3)

P 5

—保護財団の活動—

P 13

会報



京都の六斎念仏

—重要無形民俗文化財指定
20周年を経て—

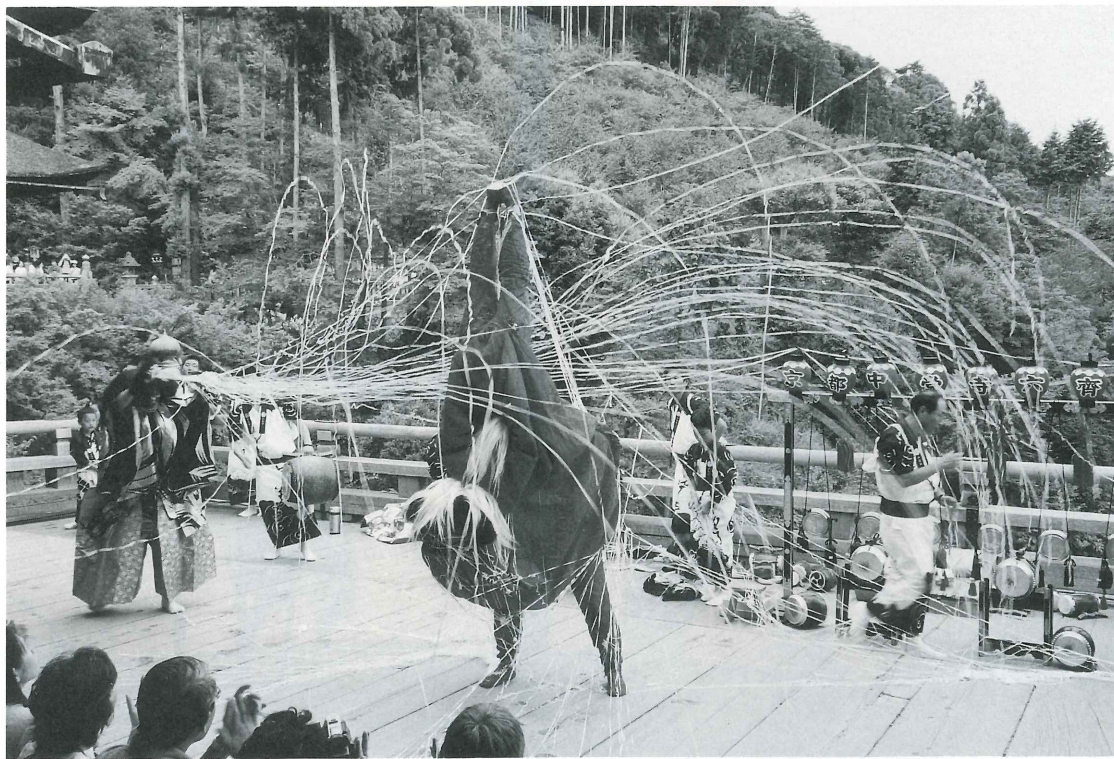


橋本 治夫

京都の六斎念仏が、国の重文（正しくは重要無形民俗文化財）指定を受けて20周年。この間、六斎連合会（正しくは京都六斎念仏保存団体連合会）も大きく変化を遂げました。重文指定時に活動していました空也念仏^{こおり}郡保存会が、会員の減少と高齢化で指定後間もなく姿を消し、また昭和60年代になって実力会長が亡くなった西院六斎念仏保存会が、その活動を休止しました。その反面、昭和50年代に休止していた桂六

斎念仏保存会と途中一旦中断した上鳥羽橋上鉦講中が、活動を再開しましたし、西院六斎がなくなってしまうのを惜しむ西院地区自治連合会が、平成10年に入って西院小学校の児童に呼び掛けて子ども六斎の復活を目指しています。

六斎連合会の体質の変化は、平成元年に開催された第43回国民体育大会で、第何回目の国体からか開会式に開催地の代表的な郷土芸能を演じることになり、この京都国体でも、伝統芸能とスポーツの融合を図るため六斎連合会に打診があり、グラウンドいっぱいに8組の獅子と土蜘蛛が出場しました。これを契機に、各団体の若い演技者の間から、各団体の固有の技術として完成させたものは、他の団体に公開するというようなことは昔では考えられなかったことです



清水寺の舞台で演ずる獅子舞

が、現在ではそのことよりもむしろ後継者問題や、各保存会の維持・継承が共通の悩みであり、特に六斎の花形である獅子を演ずる後継者がいないという問題は、密閉の袋の中でアクロバティックな演技が要求される為に、若い内に腰を痛める人が多く、獅子演技者の寿命が短いといった問題があるために、獅子についてのノーハウの交換をすることになりました。獅子が袋もかぶらずに演技すると、各保存会が長い歴史の間に培ってきた技術が公開され、この交流により、各団体の獅子の技術が飛躍的に向上したといわれました。この獅子舞の技術の交流の他に、クモノスづくりの実演も非常に有意義な交流でした。この六斎連合会の技術交流会の詳細については、本会報の第57号に掲載されています。

六斎連合会の次の大きな仕事は、六斎連合会としての一般公開活動です。戦前は、8月17日の清水寺の星下り、8月24日の東寺お涼みに市内の六斎が競演し、演技を競い合っていたこともありました。その復活とは言えないまでも、六斎連合会の各保存会に呼び掛けて、盆期間中に清水寺の奥之院檜舞台で、いくつかの団体が奉納することになりましたし、11月第2日曜日の空也堂極楽院の空也開山忌にも、どこかの保存会に六斎の奉納をしていただくことになりました。また、昨年度から始まった京都・花灯路には、まだ寒い期間ですが、六斎連合会から複数の保存会が出場して、観客の人気を得ています。

私たち六斎に限らず、全国の郷土芸能の共通の悩みは後継者養成の問題です。六斎念仏では、10年やってまだ半人前、20年やってやっと少し恰好がついてくるといわれるほどの奥の深いも



こども六斎教室
成果発表会で演技を披露する小学生たち
(3/14 於：大谷ホール)



六斎クラブの練習風景

のです。進学問題や就職、あるいは就職後でもこれだけ変化の激しい時代に、こんな状態で郷土芸能なんかやっていられないといった意識からか、後継者不足のために活動が鈍化している保存会も多く、別表の一般公開表の各々のメインステージ以外は、依頼公演は一切受けられないという保存会も多くなっています。

昨年文化庁が立ち上げた「伝統文化こども教室」は、郷土芸能や伝統芸能の後継者不足の解消の一環を担ったもので、私たち六斎連合会としても早速「こども六斎教室実行委員会」をつくり、それまで各保存会が独自につくって教えていたこども六斎会を、それぞれの地域の小学校の六斎クラブとして活動を開始しまし

た。早速、京都市内に8つの六斎クラブが誕生し、四つ太鼓を中心に1年間練習に励みました。こども六斎教室実行委員会では、去る3月14日(日)に、下京区の大谷ホールで、第一部に8団体の「四つ太鼓」の競演として、138人の小・中学生が各団体とも工夫をこらした四つ太鼓に挑み、第二部では、4つの六斎クラブが、

四つ太鼓以外の出し物で観客を楽しませてくれました。

平成16年度の「伝統文化子ども教室」では、京都市内にさらに多くの小学校に六斎クラブができて、六斎念仏の将来の発展に寄与していただけることを期待したいと思います。

(京都六斎念仏保存団体連合会々長)

平成16年度六斎念仏の主な一般公開表

京都六斎念仏保存団体連合会

月／日	公開場所	所在地	開始時間	団体名
8／9(月)	壬生寺	中. 坊城通り四条下ル (075-841-3381)	20:00	壬生六斎
8／15(日)	千本閻魔堂 (孟蘭盆奉納)	上. 千本鞍馬口下ル (075-462-3332)	20:00	千本六斎
8／16(月)	円覚寺	右. 嵯峨水尾宮ノ脇町58 (075-861-2795)	17:30	円覚寺六斎
8／16(月)	壬生寺	中. 坊城通り四条下ル (075-841-3381)	20:30	中堂寺六斎
8／16(月)	西方寺	北. 西賀茂鎮守庵町50 (075-492-5889)	21:00	西方寺六斎
8／22(日)	浄禅寺	南. 上鳥羽岩ノ本町 (075-691-3831)	20:00	上鳥羽
8／22(日)	上善寺	上. 鞍馬口寺町東入ル (075-231-1619)	20:00	小山郷六斎
8／22(日)	桂・地藏寺	西. 桂春日町8 (075-381-2650)	20:00	桂六斎 桂六斎会長宅 (075-391-7831)
8／23(月)	阿弥陀寺	右. 嵯峨野宮ノ元町76 (075-881-2316)	19:30	嵯峨野六斎
8／25(水)	吉祥院天満宮	南. 西大路十条西入北 (075-691-5303)	20:00	吉祥院六斎
8／29(日)	梅宮大社	右. 梅津フケノ川 (075-861-2730)	19:30	梅津六斎
8／31(火)	蔵王堂光福寺	南. 久世上久世 (075-921-3625)	20:00	久世六斎
12／13～31	六波羅蜜寺	東. 松原通り大和大路東入二丁目 (075-561-6980)	毎日薄暮	六波羅蜜寺 空也踊躍念仏

(注) 紙面の都合で各六斎念仏の主な公開行事の一件のみを紹介いたしましたがその他にも公開行事があります。都合により、公開日時が変更されますので、見学を予定される場合、事前にご確認下さい。

特集 「京都の庭」(3)

生(なま)の庭の姿

街全体に庭が溢れている京都、これほどたくさんあるにもかかわらず、どれ一つとして同じ風趣のものはありません。たとえ似たような雰囲気は感じられても、どこか漂う気配が違う、そのような経験をしたことはないでしょうか。もしあなたがそんな覚えはないとすると、もしかすればあなたは庭に足を踏み入れていながら、庭を見ていないのかもしれません。

たくさんある京都の庭を理解するには、まず枯山水や回遊式といった様式や公家や大名の園などといった分類をし、さらには灯籠や竹垣、庭の石組みなどの構成要素に着目するのが近道といえるでしょう。また、庭が造られた背景などを知るのも一つの手かもしれません。今日では親切なことに、庭の中に案内板や地図が設置されている場合が多いので、庭の特性や見所を事前に知り安心して楽しむことができます—といったフレーズはごく一般的な庭の見方です。しかしこのような見方は、一方で庭を体験する前に先入観を植え付け、生(なま)の庭の姿を覆い隠すおそれがあると考えられます。たとえば様式上同じ類に属する庭であっても、所有者や維持管理を行う職人、立地条件などが異れば、風趣に違いが現れるのは当然ですが、はじめから同一の様式であることを前提にすると、所有者の好みや職人の癖、湿気や風通しなどには思いが及ばなくなります。なぜこのような事態を招くかという、私たちには知的好奇心が満たされると途端に関心を失い、感覚的に対象をと

らえることができなくなるという側面があるからです。さらにいえば、庭の中での現象を知識情報として頭に詰め込めば詰め込むほど、庭を訪れることが情報の確認作業だけになってしまうのです。

たしかに庭を楽しむには、事前の情報があるほうが楽しみの幅が広がるには違いありません。植物や石造物の名称を知っていれば、友人との話はさぞかしはずむでしょう。ただし、庭を歩いているなかで感じられる、明るさや暗がり、まぶしさや肌寒さ、緊張感や安らぎなどといった情緒的な感情はどのように友人に伝えればよいのでしょうか。またこれらの感情は、なぜそのように感じるができるのでしょうか。後に触れますように、上記の感情を引き出しているのは、ひとえに庭園の所有者をはじめとする庭を守り続けている人々の情熱と努力であり、私たちはそれを知らずして、うつろに庭を歩き回っているという側面が否めないのです。

今回はこれから庭の維持管理の実態を通して、生(なま)の庭の姿にせまってみることにします。

静かに躍動する庭

□創造行為としての維持管理

時として庭を語る上では、「庭造りが四分で維持管理が六分」であるといわれることがあります。素直に考えれば庭に植物は付き物であるとはいえ、やはり庭は造られたものなのだから、造る方に多く力が注がれてしかるべきであると

思われます。それにもかかわらず先の表現では、庭は造ることよりも維持管理により重点を置く必要があると受け取れます。さて、なぜこのような言い様がなされるのでしょうか。

まずここでは、私たちの国の庭が置かれている事情について考えてみることにしましょう。私たちの国の気候風土は、わずかのあいだ空き地を放置するだけで樹木にはふさふさと枝葉がつき、背丈ほどの雑草が敷地の全面をおおってしまうほど旺盛です。それゆえ、どれほど贅を尽くし、技巧を凝らして造られた庭でも、一年間剪定や草むしりを怠るだけで、色あせてしまい、さらに五年も放置していれば庭の輪郭は曖昧になり、十年もたてばそれまでの風趣は失われてしまいます。これは、百年以上ものあいだ脈々と手入れがなされてきた庭であっても例外ではなく、維持管理を再開しても、以前の風趣を取り戻すことは至難の業といえるでしょう。

こうした植物の生長のはやさを如実に表している例としては、京都御苑の大樹林があげられます。これらの木々は明治維新のあと一斉に植えられたもので、百数十年あまりのあいだに巨木へと成長しています。木々の生長は私たちが思うよりもよほど早く、そして力強いものです。意外と見過ごしがちですが、植物の根の力はとても強靱で、庭の石組みを押し上げ、園路や腰掛け待合いの三和土（たたき）を破壊し、場合によっては土塀を倒してしまうことさえあります。庭の荒廃を招くのは何も植物だけではなく、見逃せないのが水の力です。池の水の出入りといった微弱な力の作用でも石組み護岸は崩壊に導かれ、雨水は園路や築山を痛め、ひいては庭の地割り全体の弛みを招くおそれがあります。さらにいえば、池に住む魚やザリガニといった

生物が護岸に深刻な影響を与えることすらあります。

以上のように私たちの国の庭は、旺盛な気候風土の恩恵にあずかりながらも、その反面つねに森羅万象が及ぼす力によって身体をむしばまれているといえるでしょう。庭の荒廃は全体にまんべんなく進行するので、目に見えて姿形の変化が伝わってきませんが、庭はつねに躍動し変容しています。荒廃と再生を繰り返すことを運命付けられている私たちの国の庭は、絶え間ない人の手による加護が必須であるという点で、維持管理の重要性が説かれるのはたしかに妥当なのでしょう。

ところでこの「庭造りが四分で維持管理が六分」という言葉は、たんに日々生長する木々や弛んだ石組みを修復し、庭の状態を一定に保つことを主眼にしているわけではありません。庭は時勢やその時々所有者の好みや都合により造り替えられることが少なくありません。また、先ほどの植物や水などの影響以外も天変地異などによって、庭はつねに姿形が変わりやすい状態に晒されています。したがって庭の完成とは、絵画や彫刻などのように姿形が一定に横たわっている状態ではなく、絶えることのない維持管理（手入れ）の始まりを告げているとともに、庭の風趣を育む契機であると言い替えることができます。このように何気なく行われているように見える剪定・整枝や掃き掃除、草むしりなどといった維持管理は、本来庭造りと分けて考えることのできない一連の創造行為なのです。



高所剪定

命綱を用い遠い枝先に出る。梯子や脚立を駆使し、あらゆる姿勢で手入れを行なう。地面は必ずしも平らではないので三脚はとても有用である。



庭の樹木は高いものになると、民家の二～三階の高さにもなる。写真はアラカシの高生垣だが、内部は光が刺し込まないので、足場となる枝が枯死し、少なくなっている。梯子を使って生垣の頂上に出て、徒頂枝を一つずつ切り落としていく。この時、足場はほとんど見えない。数少ない足場となる枝を頼りに、幅2mにもなる高生垣の頭をそろえてゆく。この時、遠くから見て高生垣の頭がそろっていないなければならないので、経験が問われる。梯子を架け替えたり、時には樹上を移動しながら、アラカシの葉が連なる海は整然とまとめられてゆく。



道具

右からわらび手、手ノコギリ、わらび手、剪定ばさみ。それぞれの職人ごとに用いる道具が違うことがわかる。

右からキリバシ大・中、小・わらび手。仕事内容、手入れ、樹木毎にハサミは持ち替えられことがある。ちなみに一番右端は、刃の向きが逆。これは左利き用である。



樹木ごとの手入れ

「マツの葉むしり」マツの秋の手入れがこの葉むしりである。「みどり摘み」ともいう。春には「芽摘み」という手入れが行なわれる。アカマツやクロマツは、一度伸びて枝葉の付かなくな

った所からは、新たに枝が生えてくることがほとんどない。それゆえ、「芽摘み」での枝の伸張距離を抑制したり、「葉むしり」や「枝の差し替え」を行い、枝葉の健康状態を保つための、細やかな手入れをする必要がある。



「落葉樹の手入れ」

モミジなどの落葉樹では、枝先のやわらかさを大切にし、手で枝を折るなどの配慮がなされている。若く、やわらかい枝を残し、強く伸びた枝を外す。手で折る

と切り口が自然。

ハサミの使用は時と場合による。切り口が鋭利になってしまい、落葉樹がもつやわらかい枝振りが台無しになる。

「マキノキの手入れ」

マツの葉むしりと基本的には似ている。ただし、マキノキは枝のあらゆる所から新芽が生える。古葉と新しい葉の一部を、両手で掴み、片方ずつむしり上げてゆく。枝葉の足元がすっきりし、見映えが良くなるとともに、通風や透光を促し、枝葉の健康状態が保てる。



「モッコクの手入れ」

職人が手首に付けているのは、手甲（てっこう）。手元がしっかりし、手入れがしやすくなる。地下足袋に似た効用。マツ、マキノキ同様古葉と一部の新葉をむしり上げるが、モッコクは一つ一つの葉が大きいので、一枚ずついねいにむしる。五枚透かし、三枚透かしなど植栽の濃度や健康状態によって変化する。写真は、五枚透かし。



ロープワーク

まず、足場となる枝にロープをまきつける。この時も支点で力が効くように結び付けられる。足場より高い所までロープが引っ張られている。万力で足場となる枝が吊り上げられ、足場に幹でしっかり止められている。これで少々枝に力をかけても折れることはない。こうした技術が用いられることにより、枝先が手に届かない所で手入れを可能としている。

石など重いものを運ぶ時に用いられるロープワーク。担い棒は手入れの際に切り取られたカシの枝。いわゆる廃物利用である。



□目に見える庭と目に見えない庭

これまで庭の維持管理の重要性を述べてきましたが、何もやみくもに隅々まで行き届いた手入れをしなければならないわけではありません。維持管理の程度は、庭の沿革や生活のありよう、所有者の好み、立地に即して変化するもので、それは文化財の庭であっても例外ではありません。また庭の手入れの仕方一つをとっても、野趣味にあふれた雰囲気や落ち葉一つない整然とした状態など、それぞれの庭の風趣に合わせて使い分けられます。それゆえ庭の維持管理を行う者には、各々の庭が置かれている状況を見極め対処できるだけの見識と力量が求められているといえるでしょう。

ふだん私たちが庭を訪れるとき、このような庭の手入れに対する配慮などに気付くことは希ではないでしょうか。おそらくそれは私たちの庭を見る姿勢が、樹木や石などといったモノや説明版や地図といった情報といった「目に見えるもの」ばかりに向いているからです。実のところ庭を見るという行為には、庭の維持管理を行っている所有者や職人の所作及び考え方といった「目に見えないもの」を感じ取るといった次元があります。

庭の風趣とは、自然に発生するもしくは漠然と手入れをしていれば醸しだされるといった恣意的なものではありませんし、うつろに庭を歩いていれば感じ取ることのできるものではありません。庭の維持管理に携わる者は明確な意志をもって、また庭を訪れる者は庭全体にちりばめられた手入れの痕跡を想像することによって、有機的な庭の風趣をまともにあるものとして認識することができるようになるのです。

しかし困ったことに「目に見えないもの」を

見るというのは、雲をつかむようなものでどのような手段を講じれば可能なのか、見当がつけられないのではないのでしょうか。以下、庭の維持管理に携わる職人の言葉づかいの考察をもとに、「目に見えない」庭を概観することとします。

京の庭木手入れにまつわる言葉づかい

□考察の目的と方法

近年、職人の技に関する書物が数おおく上梓されており、それと同時にいわゆる「職人言葉」が注目されています。どのような社会にも限られた生活圏の中でしか通用しない言葉の体系があります。たとえば、家族や学校、職場の人たち、もしくは限定された業界の中でしか共有しえない言葉づかいです。いわば「職人言葉」もそのようなものの一つといえるでしょう。これらの言葉づかいは、方言や隠語などとは異なり、話題には上がっても詳細に分析するまでには至らないことが多いのですが、実はこのような狭い社会で限定的に用いられる言葉づかいにこそ、様々な生業の独特な考え方を見いだすことができるといった側面があります。

私たちが知る「職人言葉」はたいてい単語のみであり、かれらの日常的な会話をまとめるといったことはほとんどなされません。たいがい辞書というかたちで体系化されます。しかしそもそも、それほど互いの交流が少なく狭い社会で用いられる言葉をひとまとめにするのは乱暴すぎるという側面もありますし、職人が辞書で体系化された言葉を日常的に用いているといった誤解を与える危険性もあります。後にも触れるように職人は、日常的に「職人言葉」を用いるとは限らないのです。

本考察では庭の維持管理に携わる職人から聞き取りを行い、かれらが日常的にどのような言葉づかいをし、庭と向き合っているのかを考察しました。聞き取りは、平成12年8月から11月の期間に行いました。これはあくまでも、少人数の職人集団を対象にした言葉づかいの基礎的な実態調査であり、聞き取りの対象者は、京都市を中心に活動する職人4名と筆者自身との計5名です。筆者に対する聞き取りは職人の一人にお願いしました。

聞き取りをするにあたっては、その補助として筆者が使用頻度の高いものと判断した12語をあらかじめ提示し、それらを用いるときの言葉づかいとその内容を尋ねました。また提示した12語以外については、各人固有の語として追記しました。聞き取り調査の結果を一覧にしたものが「聞き取り調査結果一覧」です。

聞き取り調査の結果と考察

まず聞き取りを行ってみて気付いたのは、職人及び筆者が単語固有の意味を特別に意識していなかったことです。端的に言えば単語の内容について質問を投じたとしても、当事者は日常会話の中で単語を意識して話すという経験がないため答える術がないのです。そこで少し方針を変えて、提示した言葉を用いる場合はどのような状態や状況にあるか具体的に訪ねてみました。すると今度は、かれらが作業を行う環境や事態、または季節や樹種名、道具等々を引き合いに、言葉の微妙なニュアンスの違いにまで解説をしてくれるようになりました。

聞き取りの結果得られた単語の数は、事前に用意した12語の倍に当たる24語でした。回答するさいの特徴としては、微妙なニュアンスを伝

えたい場合、語の差異をより明確にするために類似した語をまとめて説明する傾向がありました。例えばB氏は【はさむ】と【とばす】、【はねる】、【つまむ】の4語をひとつの語群とし、剪定の強度といった指標を用いてそれぞれの違いを明確にしました。このような手法は、一見差異がなさそうな語でも、その単語が形容する所作が明確に使い分けられていることを示唆しています。

次によりいっそう言葉の意味を明確にするには、一つの単語から想定される状況を様々な視点から推しはかるという傾向があります。たとえば前出のB氏は、【はさむ】の意味を「刈り込みを行うさい、樹木を深く刈り込まないように配慮して形を整える」こととしながら、梅雨の前後では「開花の時期が過ぎ、潤沢な降雨による萌芽力を期待できるので、少々強めに刈り込まれ」、冬期には「来春に咲く花芽に配慮して、わずかに浅く刈り込む必要があると述べています。このように言葉の表現は同一でも、状況が異なれば想定される所作はおのずと違ってくるようです。

以上のことから言葉（特に単語）は、無限にある所作のありようを特定の表現にあてはめているにすぎないため、言葉と所作を一对一の関係と見なすことはできないのです。それゆえ、限られた生活圏の実態を言葉の分析から概観するばあい、単語の意味を特定の所作と連合関係に置いたり単語の羅列から差異のみを解説したりといった手法を適用すると、実態とはかけはなれた情報の集積に陥る可能性があります。

ここまでは主に単語を軸に考察をしてきましたが、この先は単語を手がかりに聞き取りをすることによって編みあがった言葉のモザイクを

分析することによって、さらにかれらの庭での振る舞いを探ってみることにします。まず調査対象者から聞き取った内容を精査していると気付かされるのは、言葉には特定の所作を言い表すだけにとどまらず、樹木の健康状態や庭全体への気くばりが想定されていることです。これはしごく当然のことで、基本的にかれらの所作が目的に即したものである以上、所作を説明するためだけの言動とは著しく不自然な行為なのです。つまり言葉が意味することには、所作のみを言い表す側面とかれらの庭に対する志向を言い表すといった二つの側面があることになります。そこで言葉のモザイクから後者を抽出してみると、かれらの関心は植栽樹木の健康状態に対する配慮、通風、射光、植栽樹木の密度や日当たり、剪定後の印象、明暗、枝葉の濃度などに向けられていることが分かります。当初聞き取りをした時にはこれらの関心事を言い表す語彙はありませんでしたが、実は【こい・うすい】、【あかるい・くらい】、【かたい・やわらかい】といった対語で言い表されているようです。

【こい・うすい】

庭の様相は植栽樹木の生長により絶えず遷移しています。このように繰り返して変化する木々の密度や落葉の堆積、枝葉の混み具合などは、濃度の推移として認識されています。濃度の推移という概念は落葉の掃き掃除のさいに欠かせないものです。たとえば紅葉の時期、落葉樹は絶え間なく葉を落とすため掃き掃除を「落ち葉を摘出し集めること」と考えれば、その行為には際限がありません。そこで落葉を一つずつの落ち葉の集まりとは考えずに、庭に敷き詰められた絨毯のようにとらえ、全体の濃度を平均的

に減少させれば、少々落ち葉が残っていても見る者には整然とした印象を与えます。この濃度という概念は、植栽樹木のまとまりや庭全体の陰影のつけ具合、または樹木単体の枝葉の密度を調整するさいにも用いられます。人の認識は事物の細部情報の総和によるものではなく、全体の調子に依拠しているという知覚心理をうまく応用した考え方といえます。

【あかるい・くらい】

庭の植栽樹木は生長のままに任せていれば、たちまち枝葉が密集し庭の中はうっそうとします。すると陽当たりと風通しが悪くなることで、植栽樹木の健康状態が損なわれるとともに庭を歩くさいの爽快感が失われてしまいます。そこで適度な枝葉の整理によって陽当たりと風通しの調整が行われますが、このときの微妙な加減は明暗という概念で表現されます。また、庭全体の厚みや奥行きといった空間上の考え方を言い表すさいにも用いられることもあります。

【かたい・やわらかい】

何年間も継続して維持管理がなされている庭の植栽樹木は、どうしても樹枝のながれが寸断されたりいびつになり、見る者に不自然な印象を与えることがあります。これは外圧を忠実に痕跡として残すという樹木の性質によるもので、よほどうまく枝葉の更新を行わなければ、樹形はねじれ樹枝がこぶ状態で寸胴といったみにくい姿になりかねません。そこで植栽樹木を手入れする上での印象を指摘する上で、堅い・柔らかいという概念が用いられることがあります。植栽樹木の堅さと柔らかさという認識は人の視点がもとなるため、見上げる樹木と見下

聞き取り調査結果一覧

No.	採取用語	B 氏	C 氏	D 氏	筆者
1	おろす	樹木の太い枝を切り落とす。この言葉によって剪定の程度を判断し、主としてノコギリが用いられる。樹木密度を緩和する意味がある。	樹木に手を入れ、仕立てること。対象は比較的漠然としたもの。“さばく”に類似した意味で対象は定まらない。	樹木の太い枝を基から切る。高木のみを対象とし、主としてガンドウが用いられる。	高木の頂上の太い幹や枝をノコギリで切り落とすこと。庭園全体の明暗の調節を行い、植栽の健康状態を気遣う。剪定強度は“とばす”より強い。
2	とばす	比較的に太い徒長枝や花芽を取る。剪定の程度を判断し、樹木密度を緩和する意味がある。	突出している枝を抑え、樹木全体の量感を抑える。庭園全体の調和を考え、明暗の調節をする。この言葉によって剪定の程度を判断する。	とび出ている枝を基から切る。枝は中芽では切らないように配慮する。強剪定を意味する。樹木全般を対象とし、主としてノコギリが用いられる。	中高木の突出している太い枝を切る。込み合った木々の明度を大きく調節する。強剪定を意味し、“はねる”と類似した用い方をする。
3	はねる	わずかに突出している目立つ枝を取る。剪定の程度を判断する。“つまむ”に類似した用い方をする。	突出している枝を抑え、元の大きさは変えない。“とばす”と比べて剪定強度が強い。庭園全体の明暗の調節をし、植物の健康状態を気遣う。	全く使用しない。	棚仕立てや刈り込みをする樹木の突出している枝を取る。枝葉の先端の又状部分で切る。中剪定を意味し、柔らかい材質の低木を対象にする。
4	はさむ	ハサミを用いて突出している枝を取る。弱剪定を示し、“とばす”・“はねる”より剪定強度は弱い。取る枝葉の数は“つまむ”より多く“はねる”より少ない。	小バサミを用いて突出している枝を取る細かい作業。この言葉によって剪定の程度を判断し、樹木の健康状態を気遣うこともある。庭園全体の明暗の調節をする。	全く使用しない。	“はねる”は中低木を対象にするのに対して、“はさむ”はツツジ類のような低木の突出している枝を取る。弱剪定を意味する。
5	ぬく	他の枝と交差している長い枝を取り、風通しや日当たりを良くする。樹木の健康状態に配慮する。庭園全体の明暗の調節を行うこともある。	“ぬく”は京都の独特な考え方。受けを考慮して枝を取り、風通しや日当たりを良くする。庭園全体の明暗の調節を行い、樹木の健康状態を気遣う。	混み合った枝葉に隙間をあけて風通しや日当たりを良くする。樹木全般を対象とし、主としてノコギリを用いる。	樹木全体の中で他の枝を阻害している長い・太い枝葉を抜き、日当たりを良くする。庭園全体の明暗の調節を行い、植栽の健康状態を気遣う。
6	なでる	刈り込み樹木を深く刈らないように全体を配慮して形を整える。季節ごとに樹木の健康状態を気遣う用い方をし、基本的に元の量感を維持する。	刈り込み樹木のとび出ている枝を抑えるが、量感に変えない。“浅刈り”ともいえる。樹木の健康状態への配慮よりも形体を重んじる。	局面を含めた面的な樹木の葉を刈り、なめらかな面をつくる。主としてツゲやサツキを対象とし、弱剪定を示し、両手バサミは用いられない。	サツキやヒラドツジなどの小さな葉の刈り込み樹木の表面を薄く剥ぎ取る。植栽の健康状態を気遣うこともある。極めて弱剪定を意味する。
7	わる	枝のまとまりを整理し、密集した枝の数を減らす。枝葉に隙間を与え風通しや日当たりを良くし、樹木の健康状態に配慮する。“すく”に類似する。	棚状に仕立てた樹木の量感を变えずに風通しや日当たりを良くし、後方への透過を良くする。庭園全体の明暗の調節をする配慮は“ぬく”よりある。	枝葉の重なりをなくし量感を抑え、風通しや日当たりを良くする。庭園全体の明暗の調節を行い、樹木の健康状態に配慮する。弱剪定を示す。	枝葉の流れの中で、他を阻害している枝を取り、光の通りを良くして“たな”にする。庭園全体の明暗の調節を行い、植栽の健康状態を気遣う。
8	まびく	地被植物や木梢、ひこばえ、竹などを地際から切り取り、樹木密度を緩和し、風通しや日当たりを良くする。植栽の健康状態を気遣うこともある。“ぬく”に類似した用い方をする。	背丈の高い地被植栽やササ類を整理し、風通しや日当たりを良くする。主に、小バサミを用い、庭園全体の明暗の調節を行い、樹木の健康状態を気遣う。“整理する”ともいう。	下草を少なくし、風通しや日当たりを良くする。弱剪定を意味し、庭園全体の明暗の調節を行うこともある。	地被植物や低木の密度を緩和し、風通しや日当たりを良くする。庭園全体の明暗の調節を行い、植栽の健康状態を気遣う。
9	そろえる	生け垣など集団で植栽された樹木帯の突出した枝を揃え、主に形体を重要視する。“なでる”と類似し、庭園全体の温度を“そろえる”ともいう。	刈り込みや仕立て物のシルエットにおいて、突出した枝を取る。“なでる”に類似した使い方をする。主として小バサミを用いる。	台状（棚状）に仕立てられた樹木の天端を整える。主として常緑樹を対象とし、弱剪定を示す。	生け垣や棚状に仕立てられたマツ・マキ・ツゲなどの上面を整えて面をつくる。
10	つまむ	わずかにとび出ている枝を取る。“はねる”・“とばす”と比べて最も剪定強度が弱い。樹木の形体に配慮する。ヒバの葉をつまむともいう。	全体にハサミは入れず突出した枝のみを抑え、弱剪定を判断する。“そろえる”とは意味が異なる。樹木の健康状態への配慮は“なでる”の方がある。	面的な樹木からとび出ている枝を取る。樹木全般を対象とし、弱剪定を示す。	わずかにとび出ている枝を取る。仕上がり状態に近い木、あまり手のかからない木に対して用いる。きわめて弱剪定。
11	おる	ハサミを使わずに手で剪定を行う。モジに対して使うことが多い。行為としては、“すく”・“まびく”と類似する。主に剪定方法を知らない職人に説明する時に用いる。	“とばす”・“ぬく”と類似した用い方をし、風通しや日当たりを良くする。具体的に仕立てる志向性は希薄である。	それほど太くない枯れ枝を取る。弱剪定を示す。	落葉樹の柔らかい印象に配慮して手で枝を抜き、枯れ枝を取る。風通しや日当たりを良くする。庭園全体の明暗の調節を行う。“とばす”・“ぬく”と類似する。
12	つむ	マツの若芽やチャノキなどを摘み、樹形・庭園全体の明暗に配慮する。“むしる”と類似するが、引き上げる行為と下げる行為という点で異なり、前者が“つむ”である。	マツの新芽を摘み取る。“つまむ”という言い方もする。庭園全体の明暗の調節を行う。	マツの新芽を摘む。葉を傷つけないように配慮する。	マツの新芽やその他樹木全体の実・花を取る。庭園全体明暗の調節を行う。実や花に力を使わせないために、植栽の健康状態を気遣うこともある。
13	おさえる	樹木の高さや葉張りを限定する。頭を“おさえる”という言い方をする。	樹木の枝張りを抑えること。“ちぢめる”より剪定強度は弱い。	台状に仕立てる際、とび出た天端の枝を面的に取る。	樹木の量感を全体的に小さくする。
14	ふるう	剪定後、生け垣などの樹木をよくふるい、掛かり枝を落とす。	樹木の古葉を落とすこと。仕上がりの良さに影響する。	使用しない。	樹木の古葉や掛かり枝をおとす。
15	すく	樹木の密集した枝を抜き、向こう側が透けて見えるようにする。	樹木の枝葉を軽くすること。	使用しない。	枝葉の密度を落として、風通しや日当たりを良くする。“すかず”。
16	むしる	樹木の古葉を落とすこと。“葉むしり”という言い方をする。	樹木の古葉を落とすこと。	使用しない。	使用しない。
17	おとす	枝を落とすこと。樹勢を“おとす”という言い方をする。	樹木の枝葉にはさみを入れること。	使用しない。	使用しない。
18	ちぢめる	使用しない。	樹木の量感を小さくすること。樹木密度を緩和する。	下芽を残しつつ、伸び過ぎた枝を取り、風通しや日当たりを良くする。	樹木の広がりがすぎた葉張りを小さくし、抑制する。
19	さばく	使用しない。	漠然とした指令や依頼に対し、“わる”・“ぬく”という作業をする。	使用しない。	使用しない。
20	ばらす	使用しない。	使用しない。	使用しない。	切り終わった大きな樹枝を廃棄しやすい状態に解体する。
21	そくる	使用しない。	使用しない。	使用しない。	切り終わった樹枝や枝葉を束状にひとまとめにする。
22	おしこむ	使用しない。	使用しない。	中枝が枯れて無くなってしまった樹木を面的に縮める。	使用しない。
23	つめる	使用しない。	使用しない。	同上。ただし、“おしこむ”より緊迫感が強い。	使用しない。
24	あげる	使用しない。	使用しない。	マツの若木の一番下の枝や台を取り、段を上げる。	使用しない。

※1～12は、筆者が事前に提示した単語

平成15年度
文化観光資源保護事業助成

四五行事の保存及び執行をはじめ、文化財所有者、管理者等のおこなう文化観光資源の建造物、美術工芸品等の保存修理、伝統行事芸能の保存及び執行など保護事業79件に対し、次のとおり総額6,829万円の助成をおこないました。

◇四五行事（葵祭・祇園祭・大文字五山送り火・時代祭）の執行に対する助成

対象件数 4件 助成金 3,948万円

◇四五行事の保存（祇園祭山鉾修理・大文字五山送り火火床整備各事業）に対する助成

対象件数 19件 助成金 791万円

鶏鉾鉾本体四本新調、霰天神山山本体床修理等、蟪蛄山御幣新調、長刀鉾鉾本体四本柱修理等、南観音山鉾破風飾修理、黒主山山舁棒修理、八幡山祠台座修理、伯牙山駒形提灯新調等、四条傘鉾傘鉾台車欄縁新調、油天神山駒形提灯吊屋根新調等、綾傘鉾棒振り太鼓用衣装上着修理等、保昌山駒形提灯新調、北観音山山格天井修理、浄妙山御神体（浄妙坊）下着等、大文字総刈り・遮蔽木伐採等、松ヶ崎妙法妙総刈り・火床防錆整備等、船形万燈籠総狩り・防火用ドラム缶整備等、左大文字火床修理等、鳥居形松明山道階段整備工事等

◇文化観光資源（建造物・美術工芸品等）の保護事業に対する助成

対象件数 16件 助成金 1,172万円

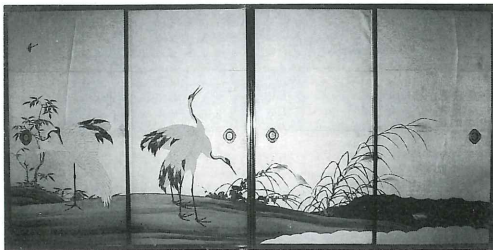
建造物の部 6件 助成金 420万円

妙覚寺一大玄閣屋根修理工事、宝鏡寺一庫裏屋根葺替工事、賀茂御祖神社一摂社御蔭神社拝殿修理工事、観智院一南門修理工事、御霊神社一

助成文化財の紹介

隣華院客殿障壁画

京都市右京区花園妙心寺町



隣華院は、慶長4年（1599）に建立された妙心寺の塔頭寺院の一つです。

当院の客殿は、文政年間（1818～1830）に再建されたもので、内部のうち五室には狩野永岳（1790～1867）筆による「花鳥図」、波・龍図、「山水図」の障壁画が描かれています。

裂傷や亀裂等の損傷が著しいことからこの度修復され、当財団も助成を行ないました。

（表紙に「花鳥図」(部分)のカラー写真掲載）

能舞台修理工事、十輪寺一庫裏屋根葺替工事

美術工芸品の部 5件 助成金 259万円

今宮神社一御旅所能舞台鏡板絵修理、東福寺一紙本着色「花鳥図」六曲一双屏風修理、霊洞院一紙本金地着色「犬追物図」二曲一隻屏風修理、隣華院一客殿障壁画修理、遍照寺一木造釈迦如来坐像修理

防災施設の部 1件 助成金 70万円

冷泉家時雨亭文庫一角蔵外壁等修理工事

その他の施設の部 4件 助成金 423万円

霊山顕彰会一霊山一帯及び各招魂社周辺整備、京都古文化保存協会一松毛虫駆除事業、賀茂別雷神神社一欄宣橋及び夜具橋架け替え工事、小川家住宅（二条陣屋）一表高塀修理工事

ろす樹木とではおのずと手入れの仕方がかわってきます。たとえば樹枝を剪定するさいに、白い切り口を見せてしまえば見る者の視点がそこに集中し、自然な枝の流れが阻害されてしまいます。樹枝の切り口を目立たなくするためには、「視線より高いところは切り口が上に向くように、視点より低いところは切り口が下に向くように」配慮する必要があります。このような細やかな気づかいのあるなしが、ひいては庭全体の堅い・柔らかいという印象にまで影響してくるようです。

□考察のまとめ

以上のように、庭に携わる職人の言葉づかいには、具体的な目的に直結した所作を言い表すものと庭に対する志向や印象を言い表すものといった二通りの語彙があるようです。いわゆる「職人言葉」とは前者のことを指し使用頻度も高いと考えられますが、筆者の実体験では、後者の「志向や印象を言い表す語彙」のほうが日常的に用いられます。したがって前者の語彙がよく用いられるのは恒常性が崩れたとき、すなわち職人の入れ替わりがあったり新しく庭の維持管理に入ったりした前後であり、双方の語彙は日常的に用いられる「志向や印象を言い表す語彙」を「具体的な目的に直結した所作を言い表す語彙」が補うといった補完関係にあると考えられます。

本考察で取り上げた事例は、ほんの僅かなものでありますが、それでも庭に携わる職人の豊かな感性やしなやかな考えが見て取れます。また職人の言葉遣いを単なる意疎疎通の手段としてではなく所作の表出であると見なすだけで、鮮やかなかれらの振る舞いをかいま見ることが

できます。さきにも触れたように私たちが庭を訪れたときに着目しているのは主として「目に見えるもの」であり、「目に見えないもの」である職人の所作の痕跡はそれほど視野に入りません。その大きな要因には、その所作を言い表す語彙を知らないということがあげられます。少々極論になりますが、私たちが感情を表出するには必ずと言って言葉を通さなければなりません。これには「言葉に言い表せない感情もある」といった反論もありますが、実際のところ「言葉に言い表せない」という言葉を使わない限り感情を表しようがないのも確かです。つまり逆説的にいえば、言葉に精通していれば自ずと感情の表しようがあるということになり、実際に庭の手入れを行った経験がなくとも言葉を知のことをきっかけに「目に見えないもの」である職人の所作の痕跡が視野に飛び込んでくるかもしれません。

（以下、次号に続く）

文：今江秀史（京都市文化市民局文化財保護課技師）

参考文献

尼崎博正・中村一『風景をつくる－現在の造園と伝統的日本庭園』（平成13年、昭和堂）

尼崎博正「日本庭園の美と維持管理」『庭園学講座Ⅳ 庭園の管理と病虫害』（平成9年、京都芸術短期大学／京都造形芸術大学／日本庭園研究センター）

西垣吉章「植物の維持管理（造園樹木を中心に）」『ランドスケープ Vol. 3 庭造りの心と実践』（平成12年、角川書店）

今江秀史「論考 京の庭木手入れにまつわることば」『庭 十月 臨時増刊』（平成14年、建築資料研究社）

（本稿は、文化財企画展「京都の庭」（平成15年1月開催、於：京都芸術センター）における展示解説文を転用・修正し、掲載したものである。）



観智院南門 京都市南区八条北大宮西入る九条町
教王護国寺（東寺）の中でも格式を誇る塔頭寺院で、
当院の南門は17世紀中期の建立と伝わる建物で、老朽
化による瓦の損傷等が著しい為、この度修復された。

◇伝統行事芸能の保存執行に対する助成

対象件数	40件	助成金	918万円
伝統行事	14件	助成金	447万円
嵯峨御松明、賀茂競馬、藤森駈馬、糺の森流鏑馬、鞍馬山竹伐り会、花脊松上げ、広河原松上げ、雲ヶ畑松上げ、烏相撲、瑞饋祭、北白川高盛御供、日野裸踊、鞍馬火祭、松尾祭桂川舟渡御、			
伝統芸能	26件	助成金	471万円
蹴鞠、雅楽、念仏狂言（壬生・神泉苑・千本えんま堂・嵯峨）、六斎念仏（吉祥院・久世・中堂寺・梅津・小山郷・千本・嵯峨野・壬生・円覚寺・西方寺・桂）、やすらい花（川上・今宮・玄武・上賀茂）、久多花笠踊、八瀬赦免地踊、松ヶ崎題目踊、大原八朔踊、番匠儀式			

文化財企画展 「近代京都の生活デザイナー 建築家・武田五一展」を開催

1月10日～27日、京都芸術センターを会場に開催しました。建築家・武田五一の京都における活動の足跡を、市内に現存する建造物等の写真パネルを中心にデザインを手掛けた実物の家具や模型、CGによる展示をおこない詳しく紹介しました。期間中およそ3,300名の鑑賞者を

数えました。



第34回京の郷土芸能まつり 「都の賑わい 祭り まつり」を開催

2月29日に京都会館第1ホールにおいて、およそ1,330名の鑑賞者を迎えて開催しました。

今回は、「鬼・土蜘蛛」の登場する玄武やすらい花や吉田神社節分祭「追儺式」などの京都市の4つの芸能に、京都府から宮津市籠神社の祭礼芸能「江尻太刀振り」と小京都から岩手県遠野市に伝わる「遠野昔話」の特別出演を交えた賑やかな舞台を楽しんでいただきました。



宮津市籠神社「江尻太刀振り」の熱演風景

理事会・評議員会報告

第59回理事会評議員会を開催し、役員の一部異動、任期満了に伴う役員の改選、平成15年度事業報告並びに収支決算、平成16年度事業計画並びに収支予算(案)について審議がおこなわれ、いずれも原案のとおり可決決定しました。

平成15年度 文化観光資源保護協力者感謝状贈呈式・ 伝統行事芸能功労者表彰式

第59回理事会・評議員会終了後に同席上において行いました。多年にわたり伝統行事芸能の保存育成などに功績のあった方々と京都市文化観光資源保護基金に多額のご寄付を寄せていただいた方々に対し、それぞれ表彰状・感謝状並びに記念品を贈呈しました。受賞者は、次の皆様です。

◇**伝統行事・芸能功労者**（敬称略・順不同）
奥田克己（烏相撲保存会重陽社）・足立幸一（西之京瑞饋神輿保存会）・八木聖弥（壬生大念佛講）・小西一弘（久世六斎念仏保存会）・榊原泰嗣（京都中堂寺六斎會）・恵阪順三（壬生六斎念仏講中）・井口一郎（上高野念佛供養踊保存会）・山下正美（木野愛宕神社烏帽子着保存会）・北波茂（上賀茂さんやれ保存会連絡協議会）・橋本富夫（梅林寺ジジバイ講保存会）・岩田耕藏（小山二ノ講）

◇**文化観光資源保護協力者**（敬称略・順不同）
斎藤武夫・岩佐氏昭・近藤漱二・平野一枝・左近チエ子・遠藤伊之助・吉田博・岸本仁吾・沼田茂子・笹池正二・寺西信一

京都・庭園散策—岡崎— 「織寶苑庭園春の特別公開」

平安建都1210年を記念し、新しい文化催事として開催されます「京都・庭園散策—岡崎—」の協賛事業として「織寶苑庭園春の特別公開」を実施します。東山連峰を借景とする新緑鮮やかな庭園をご覧頂きます。

◇日 時：4月10日～5月23日

※但し、5/3(月・祝)を除く毎月曜日及び5/16(月)

は休みとなります。

午前10時～午後4時

（受付は、午後3時30分まで）

◇場 所：織寶苑（京都市左京区白川通二条東）

◇見学科：600円（中学生以上）

*会員の皆様は、見学科を300円に優待させていただきます。優待券をご持参下さい。

平安建都千二百年記念協会 「京都・庭園散策—岡崎—」開催

5月1日からおよそ1か月間にわたって、日本庭園をテーマに京都市左京区岡崎一帯で、開催されます。

織寶苑庭園をはじめ非公開庭園の特別公開、社寺イベント、岡崎周辺的美術館、博物館の特別展・割引、講演会・シンポジウムなど多彩な事業が実施されます。

お問い合わせ （財）平安建都千二百年記念協会

TEL 075-241-1200

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kent1200/>

平成16年度事業計画

I. 文化観光資源保護事業

◆文化財所有者、管理者のおこなう文化観光資源の保存修理、防災施設等の保護事業に対する助成

◆四大行事並びに伝統行事、芸能の保存及び執行に対する助成

◆文化観光資源の管理

1. 京都市嵯峨鳥居本町並み保存館の管理運営
2. 京都市管理の史跡・名勝・天然記念物等の保存管理業務

名勝 雙ヶ岡、史跡 天皇の杜古墳、史跡 醍醐寺境内（栢杜遺跡）、天然記念物 深泥

池生物群集，史跡 御土居（7ヵ所），史跡
方広寺石塔，史跡 鳥羽殿跡，史跡 栗栖野
瓦窯跡，史跡 平安宮豊楽殿跡，史跡 榎原
廃寺跡，史跡 平安宮内裏内郭回廊跡，史跡
蛇塚古墳，史跡 西寺跡，京都市登録史跡
福西遺跡公園，史跡 天塚古墳，市登録建造
物 島原大門，史跡 山科本願寺南殿跡
以上23ヵ所

◆文化観光資源に関する調査研究事業

◆文化財保護行政機関との協議

Ⅱ. 文化観光資源保護思想の啓蒙普及事業

◆会報の発行

◆文化観光資源に関する印刷物の発行

文化財カレンダー等の発行，「近代京都の名
建築」，「京都 大文字五山送り火」等の頒布
及び「京都市文化財ブックス」などの受託販売

◆文化観光資源公開事業の実施

文化財特別公開事業，「京の郷土芸能まつり」
の実施など

◆インターネットによる国内外への情報発信

◆伝統行事芸能功労者並びに文化観光資源保護
協力者に対する表彰

◆文化観光資源保護協力者（会員）に対する招
待，優待事業

財団設立35周年会員特別招待事業の実施
京の三大祭（葵祭，祇園祭，時代祭）の観覧，
文化観光資源公開事業，文化財カレンダーの
配布，出版物の優待頒布など

Ⅲ. 募金活動

◆現会員に対する追加募金の呼びかけ

◆市民募金運動の推進として財団がおこなう啓
蒙普及事業等を通じての新規法人，個人募金
の呼びかけ

◇◇刊行物のご案内◇◇

このたび京都市より京都市内の装飾豊かな社
寺建築やその装飾の技法や特色について，カラ
ー写真や図表を用いて詳しく解説しました**京都市文化財ブックス第18集「古建築の装飾—京都の近世社寺細見—」**（A4版，76ページ，多
色刷り）が発行されました。

ご希望の方は，当財団事務局において，1300円（送
料別）で販売しておりますのでお申込下さい。

インターネットホームページ
—京都その文化遺産の保護と未来のために—

当財団では，広く全国・世界に京都の文化財
や観光資源を紹介するため，ホームページを開
設し，京都の魅力を順次発信しています。又，
財団が主催する事業や出版物などの案内も随次
紹介していますので，皆様もご利用ください。

URL <http://www.kyobunka.or.jp>

編 集 後 記



本号では，京都六斎念仏保存団体連合会の橋
本治夫会長から重要無形民俗文化財指定20周年
にあたり，後継者養成をはじめ保存継承に取り
組んでおられる活動について，ご寄稿を寄せて
いただきました。六斎念仏は，古い歴史をもつ
京都を代表する民俗芸能であり，当財団でも現
在11団体にに対し助成を行なっています。皆様も
各保存団体の一般公開をぜひご覧いただき，応
援していただきますようお願いします。

会 報 No.87

2004. 5. 1

会 報 題 字／理事長 上山善紀

会 報 表 紙／隣華院客殿上段の間

金地着色「花鳥図」（部分）

編集・発行／財団法人京都市文化観光資源保護財団
京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内
〒606-8342 TEL 075 (752) 0 2 3 5
FAX 075 (752) 0 2 3 6